

■遠藤隆吉 社会学者、東洋哲学者、教育家。大量の著作・講演で啓蒙し、硬教育による私立巢鴨学園を創設し発展させた。

えんどうりゅうきち

佐賀の乱・・・1874＝

群馬県前橋市神明町で、戸長を務める旧前橋藩下級士族遠藤千次郎の長男に生まれる。母ははる、姉とよ・ちよがおり、妹ひでが誕生。明治維新前には、伊豆韭山代官江川英達の砲術門下生として免許を受け、初の民間工場1875＝1歳：3年前に「学問のすすめ」を、この年「文明論之概略」を公刊した福沢諭吉をはじめ、志高く、道を治め、時代を導いた人物を畏敬する父と、優しい孝養の人だった母から、将来を託され、隣人に漢学を学んで、

- 明治14年政変1881＝7歳：桃井小学校に入学した頃には、「大学」を読み終わり、四書を終えた頃には、成績優秀により、文部省から「孝経」を賞賜されるほど、抜群の読書力、集中力、理解力を併せ持ち、のちに著名になる竹越三郎の英語の授業にも通学、両親は、貧しいながら上級学校に進ませようと、岩倉具視没・1883＝9歳：ちょうど禅寺を借りて開校した前橋中学校に、卒業とともに入学、校長が慶応出身で授業は全て英語で苦勞するも、親戚筋の住職から「金剛經」をはじめ多数の文献を借りて書写、禅宗に強く関心を抱くようになり、国民之友始・1887＝13歳：この頃には、早くも、哲学に志向、生活費を切り詰めても学問の道に進みたいと、帝国憲法発布1889＝15歳：首席で卒業すると、上京して、第一高等学校(一高)を受験合格、予科二年に飛び級で入学。卒業から入学まで5か月間、初めての長期休暇に対応できず精神的危機、入学後も読書がままならなかったが克服、大本教・・・1892＝18歳：本科一年に進み、進化論や東西文明不調和を意識、最初の研究ノート「易学原論」「耶穌教」をまとめ、日清戦争始・1894＝20歳：卒業。高山樗牛や桑木巖翼ら俊秀の集まる「東京帝国大学文科大学哲学科」に進み、学長井上哲次郎に師事して、その東西に偏しない学に影響を受けたほか、教授陣の、心理学の元良勇次郎、ギリシャ哲学・古典のラファエル・フォン・ケーベル、社会学の外山正一から思想的学問的人格の感化を受ける。白馬会・・・1896＝22歳：ギディングズ「社会学原理」を翻訳し、研究ノート「李退溪之哲学」と漢文による「儒門両開論」、八幡製鉄始・1897＝23歳：卒業。研究ノート「現象即絶対論」「華嚴法界観門」「韓図(カント)純粹理論批判」などを執筆、Bushidou・・・1899＝25歳：ギディングズ「社会学」を翻訳公刊、「支那哲学史」を処女出版以降、著作旺盛。前年に東京高等師範学校校長になった伊沢修二が新たに設け、優れた学生のあつまる研究科の社会学講師に就任、教授法に四苦八苦するも校長に高く評価されるが、伊沢は病のため辞任、以後、長く嘉納治五郎が校長、ピア/国産化・1900＝26歳：哲次郎の媒酌で、伊沢修二の二女なつと結婚、本郷弥生町に新居。「最初の代表作」『現今之社会学』を出版。信州上田の講習会に招かれ、はじめて社会学の講演を行なつて以後、全国に講演旅行。
- 教科書疑獄・1902＝28歳：長男健吉が誕生。「公民心得」、翌年「社会学及研究法」、日露戦争始・1904＝30歳：「日本社会の発達及思想の変遷」、**「支那思想発達史」**は恩師井上哲次郎を驚嘆させた。日露戦争終・1905＝31歳：「国家論」「社会史論」。将来の学園建設にと、北豊島郡巢鴨村の一軒家を購入し移住、動物や盗賊に悩まされるも先見の明。旅行嫌いながら、比叡山越えし、讀破の観音寺から鹿兒島を経て琉球に至る講演旅行。満鉄発足・・・1906＝32歳：長女光子誕生。「虚無悟淡主義」「視話音字発音学」「英語の発音」「発音表」「小学発音指南」、韓国反日暴動1907＝33歳：二女郁子誕生。***日本社会学研究所を創設し、本社会学論叢を発刊、代表作「近世社会学」を発表。社会学に関する論文により、異例の早さで、文学博士の学位を取得、わが国社会学創始期の代表者の一人になる。**『社会心理と教育』『哲学入門』。論叢は「教育学の国家的建設」「軟教育と硬教育」を発表するも中止になる一方、「東洋人文主義」にもとづいて、文武の鍛錬による知識習得、人格陶冶を図る「硬教育」を確立、伊藤博文暗殺1909＝35歳：三女悦子誕生。日置黙仙禅師と山形県庄内の講習に赴いた際、無着の居士号。「社会学術語稿本」恩師井上に先立つ「東洋倫理学」を出版すると、私財を投じて、私塾(菓園学舎)を創立し、研究よりも教育に転換。韓国併合・・・1910＝36歳：城戸幡太郎、石川謙が入塾。「男女青年の心理及教育」、**「硬教育」**はすぐに四版になり、北海道・函館に社会学講習講演旅行に赴く一方、政治行動の準備もあつて、(菓園学舎)内に自営の印刷所を興す。大逆事件判決1911＝37歳：二男泰二誕生。「漢字の革命」「常識百話」「土道」「東洋倫理研究」「経外遺伝逸語訓釈」「生活の趣味」、嘉納校長が教授にしようとしたのを察し、「講師のままでもいい」と固辞。菓園学舎出版部から、「陰符経」以降、明治天皇没・1912＝38歳：「学校の意味」、種々の社会的紐帯を有する日本の事象を明らかにするには、人間精神の内部にまで立ち入る必要があるとする、自らの社会思想の輪郭を示した「日本我」、大正政変・・・1913＝39歳：二男泰二死去。「総合心理学」「自殺論」「東洋倫理問答」を出版。人を訪問するのが嫌いななか、紹介を得て、満鉄総裁後藤新平を官舎に訪ねて気に入られ、以後親交、両者とも、いわゆる怪物だったからだろう。第一次大戦始1914＝40歳：四女泰子誕生。「理想の人物」「社会」、**「国粹全書刊行会を興し「日本国粹全書全24巻」を自家で印刷発行。**21ヶ条要求・1915＝41歳：五女壽誕生。「社会学近世の問題」。志賀重昂とともに、生涯唯一の海外旅行になる、満州講演旅行。民本主義・・・1916＝42歳：「道徳と品性」「易の原理及占筮」。代表作「社会力」。父が死去し、ようやく高等師範講師を退任。ロシア革命・1917＝43歳：「大正国民の修養」。出版部から、一高入学前後の自らの危機とその克服をもとに「勉強法」「読書法」を、やはり一高に進んで最初に取組んだ易学研究所を(菓園学舎)内に創設し「易学講義録」出版、本格政党内閣1918＝44歳：三男亨誕生。結婚以来、とくに学校づくりについて、育ちの違う妻との間には葛藤が続く。ベルリン条約・1919＝45歳：出版部から「社会及国体研究録」毎月一回12冊発行し、しばしば講演会を開き、啓蒙に努める。大暴落・・・1920＝46歳：「思想問題一般」、原敬首相暗殺1921＝47歳：六女幸誕生。「孔子伝」。杉謙二主宰の国際出版協会(世界再造)の編纂。「資金集めに最後の頼みと相談した根津嘉一郎が東京市長後藤新平を引き出してくれて目途がたち、巢鴨中学校建設に着工、水平社結成・1922＝48歳：「老子研究」。火災に合い、自家印刷所焼失。***代表作「社会学原論」**。後藤新平を顧問に、(菓園学舎)を財団法人として理事長、校長を兼務し、硬教育、校是とする巢鴨中学校を創立、建設開校。関東大震災・1923＝49歳：四男明誕生。「国体論」、護憲三派圧勝1924＝50歳：「人間生活の実現」「亜細亜研究緒論」「人文東洋主義と社会改造」「人文東洋主義」。巢鴨商業学校を併置し、夜学のため、第二、第三本科および中等学校を設置、産業界の急伸展に応じる人材育成に当る。治安維持法・1925＝51歳：長女光子死去。「老子をして今日に在らしめば」「易の虞世哲学」「マリア・ジョセフ遠藤光子」。中学校第一回卒業式挙行。ラジオ放送開始に東京放送局より「東西の文化的競争」放送。金融恐慌・・・1927＝53歳：「教育及教育学の背景」。慶応義塾から玉川学園に至る私学創設にも通じる「財団法人巢鴨学園を創設、共産党事件・1928＝54歳：旧制専門学校である巢鴨高等商業学校を創設し開校、生徒数四千人を数える大学園に発展する。世界恐慌・・・1929＝55歳：恩人後藤新平が死去。翌年「詔勅と国家及社会」、満州事変・・・1931＝57歳：巢鴨中学校北校舎落成。成美高等女学校校長を短期間ながら兼務し、後任校長に新渡戸稲造を迎える。五一五事件・1932＝58歳：長崎五島列島に講習講演旅行し、二女の女婿近藤英吉教授の実家を訪問。国際連盟脱退1933＝59歳：三女高田悦子死去。「Japan, China and Manohukou. The Kingly Way」、帝人疑獄事件1934＝60歳：遠藤隆吉博士還暦記念会より、巻首に高柳忠二「大遠藤イズム」を掲載した「遠藤先生華甲寿記念論文集」が公刊される。井上哲次郎の主宰した(東亜協会)の事業を継承し、機関誌(大東)の編集責任者となる。二二六事件・1936＝62歳：「易学入門(通俗易学講義録)」。校長を長男健吉に譲り、財団法人巢鴨学園総裁に就任すると、旧宅(前橋市神明町)の北西隅に「孝経の碑」を建立(没後、前橋教育資料館玄関前に移築)。出版部から、「孝経及東西洋の孝道」「遠藤隆吉漢文叢書」「巢鴨精神」「大エンドイズム」を出版するうち、日中戦争始・1937＝63歳：腎盂炎、膀胱炎を発症して、長期療養生活になるなか、「生々示字の由来及意義」を出版し、健保+総動員1938＝64歳：「四千年史完結十八史略抄補」「巢鴨小品文集」「菓園集(漢文)」。「それまでの人生を後述筆記した「菓園自伝」を出版し、千葉津田沼の地に修養道場(生々示字)の建設と着工を決意、第二次大戦始1939＝65歳：巢鴨学園南校舎落成。「生々示碑詳解」、大政翼賛会・1940＝66歳：末尾に、「自らの根本思想は皆父から来ている」と記す「生々示及其の修養法」、日米開戦・・・1941＝67歳：「生々示修養教本上・下」として続けに出版し、晩年の思想を集約、・・・1942＝68歳：太平洋戦争の勃発で、三男亨が海軍航空隊に入隊。「大東亜世界観」、創価学会検挙1943＝69歳：「模範漢和新辞典」。本州東方海面において索敵中機上戦死。年金+総武装1944＝70歳：学制改革で、巢鴨高等商業学校が巢鴨経済専門学校と改称、繰上げ卒業、学徒動員、応召が始まり、敗戦・・・1945＝71歳：東京大空襲で、全校舎、校具、教員名焼も、中・商業学校復旧に着手し授業継続する一方、巢鴨経済専門学校を千葉県津田沼町鷺沢に移転してもなく、新憲法公布・1946＝72歳：脳血栓で、没した。3年後、学制改革で、巢鴨中学校、高等学校、商業学校の三校を併置する学校法人(巢鴨学園)となり、その翌年には、巢鴨経済専門学校が千葉商科大学として新発足、学校法人(千葉学園)が創立され、二年制短期大学と附属高校も開設される。

蝦名賢造「遠藤隆吉伝：菓園の父、その思想と生涯」、